

特集

通所リハ再考

特集にあたって

対象者の生活に身近な支援を行える機関として重要な役割を果たす通所リハビリテーション（以下通所リハ）は、OTの専門性が大いに発揮できる場であるともいえる。一方で、その通所リハにおいて、ケアマネジャーをはじめとする他の介護専門職や一般の方々にとって、OTの働きが十分に知られていないといった現状がある。さらには、通所介護との違いが不明確であると認識され、本来の通所リハのあるべき姿が十分に示されていないといった課題がある。

今回の特集では、豊かな暮らしを支えるために通所リハ施設において、OTはどのような役割を果たすべきなのか、その現状や課題を通して考えるとともに、利用者が本当に通いたいと思える通所リハとは、またOTに期待すること等を模索した。

はじめに2012年（平成24年）4月の介護報酬改定による通所リハの位置づけや通所介護との違い、通所リハの役割について土井勝幸氏に解説いただき、またOTだから実践できる通所リハにおける地域支援の新しい取り組みについてもご紹介いただいた。次いで、藤原 茂氏の夢のみずうみ村での実践や実現に至るまでの経緯を基に、OTのあり方、高齢者や障害のある方の暮らしを支援する通所事業所の取り組みについてインタビューによりご提示いただいた。

また、OTの立場から暮らしにつながる通所リハの実践を、障害高齢者と認知症に対する支援を通して松尾みき氏、谷川良博氏に事例を通して執筆いただき、通所リハにおいてOTがもつべき視点、果たせる役割についてご教授いただいた。

OTに期待することとしては、通所事業所で作業を重視した支援を実践されている葉山靖明氏にご執筆いただいた。

さらに、特徴のある取り組みとして、短時間型通所リハの支援の実際を佐々木誠子氏らに、言語障害に特化した通所リハについて日下智子氏らにご執筆いただいた。

本特集が、在宅支援に関わるOTが自らの支援を考え、新たな支援に取り組むヒントとなること、また、医療機関で従事するOTが在宅へつなぐ際のヒントとなることを期待したい。

（竹内さをり）

通所リハビリテーションの現状と課題

インタビュー：高齢者、障害のある方の豊かな暮らしを実現する通所事業所の取り組み

暮らしにつながる通所リハビリテーションにおける支援の取り組み—障害高齢者への支援を通じて暮らしにつながる通所リハビリテーションにおける支援の取り組み—認知症に対する支援を通じて短時間型通所リハビリテーション施設における支援の実際

OTと利用者は新たな共同体

言葉のデイサービスの実際—「言語聴覚士のいるデイサービス」から「言語障害者のためのデイサービス」へ

企画
担当

竹内さをり（甲南女子大学、作業療法士）

山本伸一（山梨リハビリテーション病院、作業療法士）